

懸念される変異株

(主に感染性や重篤度が増す、ワクチン効果を弱めるなど性質が変化した可能性のある株)

イギリス型 変異株 (N501Y)

【従来株との比較】

- ・ **感染性は1.32倍**と推定
(5~7割程度高い可能性)
- ・ **重篤度は1.4倍** (40~64歳1.66倍) と推定
(入院、死亡リスクが高い可能性)
- ・ 再感染やワクチン効果に影響がある証拠なし
- ・ 国内3,211例、検疫317例確認 (5/11時点)

ほか、南アフリカ型、ブラジル型、フィリピン型、インド型
(インド型は、5/11にWHOが「懸念される変異株」に指定)

※N501Y変異株PCR陽性例 (3/29~5/2) : 全国で30,509例確認

注目すべき変異株

(主に感染性や重篤度、ワクチン効果などに影響を与える可能性のある株)

E484K 変異株

- ・ 海外から移入したとみられるが起源不明
- ・ 感染性に影響を与える可能性のある変異は認められない
- ・ ワクチンの効果を完全に無効化するものとは考えにくい
- ・ 引き続き、実態を調査中
- ・ 国内4,483例、検疫5例確認 (5/10時点)

ほか、米国型 (L452R)